

位置 神崎郡大河内町（旧寺前村）上小田
" " （旧長谷村）川上

大河内町の西北隅を占める。神崎郡の西北隅でもあり、西部及び北部は宍粟郡一宮町（旧染河内村、旧下三方村）に接する一大高原である。

概要 播州高原とは、本誌第4巻第2号に紹介し

た栃原高原をはじめ、今回の峯山高原、砥ノ峯高原等、場合によっては雪彦山、奥生野高原を含める播但国境附近の東部中国山脈の山々の総称として使用され、最近リクリエーションの対象としてクローズアップされてきたが、本文では狭義に、その中心と見られる峯山高原、砥ノ峯高原の意として使用する。

播但線寺前駅より市川の支流小田原川に沿い北西に進むと上小田部落につく。この部落を北に登れば峯山高原につく。この北東につらなるのが砥ノ峯高原である。この砥ノ峯より東に下れば川上部落があり、これより市川の支流犬見川に沿って下れば、播但線長谷駅につく。この両高原には宍粟郡一宮町からの登山道もあるが交通不便のためあまり利用されていない。

峯山高原は旧陸軍の演習場であった。現在、その最高^{ぎょうせい}点曉晴山（1077.2メートル）には警察の無線中継所や三角点がある。これを中心として、ゆるやかな傾斜をもつ草原で、その広さは2キロ四方もある。一時開拓されはじめたこともあるが、現在では一軒をのこして全部放棄され、その廃屋が処々に残っている。

砥ノ峯高原は峯山高原と尾根続きになっている。ここには鉱山があり、又現在盛んに開拓されている。

両高原とも湿地や水流が多く、大木は少なく広々とした草原で、兵庫県には珍しい景観である。また曉晴山からは、遠く瀬戸内海や水ノ山、すぐ下には宍粟郡の部落が見え、雄大な眺望をもっている。最近キャンプ場、ハイキング等リクリエーションに利用されてきている。

植物景観 峯山高原は、曉晴山を最高点として、東部にゆるやかな傾斜をもって開けている草原である。処々に湿地があり、ほぼ中央に高原の水をあつめた川が流れる。この川は高原の入口千畳岩の処で発電用の水を用水路にとられるが、大部分はコウノクラ谷をとおり上小田に流れ、小田原川になって市川にそそぐ。

高原は殆んどススキにおおわれ、その中にヤネフキササ、チシマササ、ヤマハギ、タニウツギ、ノリウツギ、ウノハナ、クリ、ヤマハンノキ、ヌルデ、ヤナギ類、レンゲツツジ、ウラジロレンゲツツジ等が混っている。

クロバナヒキオコシ、シオガマガク、ヤブレガサ、タチゴメグサ、リンドウ、キキョウ、オミナエン、オト

コエシ、ママコナ、ホクチアザミ、ホコバスマシレ、ナンバンギセル、シヨウジヨウパカマ、ノダケ。羊歯類では、ミヤマワラビ、ミヤマケンケンダ、タニヘゴが見られ、湿地では、ミヅゴケ、ウメバチソウ、モウセンゴケ、ミズギボウシ、オタカラコウ、サワギキョウ、ツリフネソウ等がみられる。

その他、ウスイロヒヨウモンモドキ、ヒヨウモンモドキ、ウラギンヒヨウモン、ミドリヒヨウモン、コキマダラセセリ、アオバセセリ、ギンイチモンジセセリ、ヒメヒカゲ、アカタテハ、ミドリシジミ等の蝶類やダイコクコガネ、ツノコガネ、コエゾゼミ等も見られる。

（西村公夫氏）

最近シラカバやカラマツの植林が行われている。

砥ノ峯高原は、中央に沼がある皿状の草原である。各所に湿地があり、峯山高原に行く道に沿い水流もあり、これらの水は中央の沼に入り、北西宍粟郡の方へ川となって流れている。ここも峯山高原と同じような植物景観であるが、中央の沼をはじめ各湿地でノハナシヨウブの群落が見られることが特色である。

6月下旬から7月上旬にかけて一面に紫色に見えたという往時の盛観はないが、当地方では珍しいもので大事に保存しておきたいものである。中央の沼では、クログワイ、ヒルムシロ、アカバナ、シロネ等もみられる。

高原には殆んど大木は見られないが、谷の一部分の水流に沿い、ハンノキ、オオカメノキ、ウリハダカエデ、ミズナラ、ネジキ、リヨウブ、タニウツギ等の落葉樹林が少し残っている。また、ササユリ、コオニユリ、チゴユリ、コオリンカ、ヒメハギ、キクバヤマボクチ等も多くみられる。特に5月始にはワラビ、ウドが多くとれるので、おとづれる人も多い。

登山コース ①上小田—高倉山—峯山（5キロ半・

約1時間半）上小田の小学校前のバスの終点より、北に向ってゆくと、道が2つに分れる。左へ橋を渡り祇園神社の前をとおり、部落の中をぬけると迂回してきた広い道に出るが、真直ぐに地藏堂の横を川に沿って段々畠の中を登ってゆく。

このコースは大体スギの植林の中を通るが、処々伐採した処や落葉樹林もある。エゴノキ、サルナシ、イワガラミ、ノグルミ、サワグルミ、チシマササ、コバンノキ、シラキ、ミツマタ、フサザクラ、ヤブツバキ等があり、その下には、クロバナヒキオコシ、ノダケ、フシグロセンノウ、ヤマジホトトギス、オタカラコウ、アケボノソウ、エンレイソウ、テンナンシヨウ、ミカエリソウ、ミヤマカタバミがみられる。土のいをこえると高原となる登山口杉林の中には、オウレン、ジウモンジシダが多い。

②上小田—コウノクラ谷—峯山（4キロ・約1時間半）

バスの終点からの道を真直ぐに進み橋を渡り大きくカーブした処で、右へ折れ杉林の中の道を進むと水田があり、橋をわたると道が分れるが左側の道を取り、大体川に沿って登ってゆく。この川にはヤマメ（土地でヒラメという）が多い。

始めは杉の植林の中をゆくが、途中より落葉樹林となる。フサザクラ、コクサギ、イヌザンショウ、ウラジロウツギ、クマシデ、ヒイラギ、ツリバナ、ウリハダカエデ、ザイフリボク、ミヅキ、チドリノキ、ソヨゴ、アカメガンソウ、ミカエリソウ、メギ、アテツマンサク、ナツアサドリ、ダイセンヤナギ、クサアジサイ、ドウダンツツジ、ハナイカダがみられる。また、滝もみえる。

途中、岩洞があり、附近にピロウドシダがある。

また、イワイタチシダの見られる処もある。

小さな橋をわたり、チンマササの中をわけてゆくと、用水路に出る。ここより左へ道をとってゆくと、千畳岩の処、取入口や小屋のある処につく。これより高原に入るが、ササ、ススキが茂って歩きにくい。

③上小田—開拓道路—峯山（8キロ・約2時間）

上小田から開拓道路に沿って登るコースであるが、道にはクマイチゴ等が生えて歩きにくい。

④川上—砥ノ峯（3キロ・約1時間）

川上部落のバスの終点前の寺の左をゆくと杉林になり道は2つに分れるが左へ進む。しばらくゆるやかに登り谷川をわたると、左に高原への近道がある。オンダが多い。

このあたりより今までのスギの植林と変わり、落葉樹林となる。フサザクラ、ピロウドイチゴ、イヌブナ、オオバクロモジ、ミヅナラ、ナツアサドリ、キハダ、モミ等。尾根につくと木は少なくなり、道も平坦となる。キツネヤナギ、ヤマナラシ。やがて高原が開けてくる。しばらくゆるくゆくと道は分け、左へ登ってゆくと峯山高原に、真直ぐに広い道をゆくと鉱山にわ、右の方に少し下りると、中心の沼があり、開拓小屋の前をとおり広い道をゆくと宍粟郡一宮町へ出る。この道は自動車を通れる。

⑤砥ノ峯—峯山（4キロ・約1時間）

このコースは、どちらから行ってもよいが、砥ノ峯から峯山に行く場合、登りつめ、下りはじめたら突然目の前に峯山高原の雄大な景観が展開され、山歩きの楽しさを味わうことが出来る。

砥ノ峯高原の高圧送電線の下あたりより尾根についた広い道をジグザクと登ってもよいが、水流に沿って行けば、湿地もあり、樹林の残っている処もあり、斜面は一面のススキで、迷うことなく広い道にとりつける。

これより峯山までは尾根伝いの道で、かなり広いが、チンマササが道をおおっているところが多い。ヤマナラ

シ、キツネヤナギ、リョウブ、クロモジ、タニウツギ、ウラジロノキ、ヤマハンノキ、マツ、ヤマハギ、ウリハダカエデ、クマイチゴ、ヒカゲツツジ、アセビ、コバノミツバツツジ等。途中ヒカゲノカヅラの群生している処がある。

その他の採集コース ⑥第1発電所—太田の滝—太

田の池—峯山（11キロ・約3時間半）

寺前から上小田行のバスにのり「横瀬」で下り、バス道に沿い橋をわたり発電所の手前から山道に入る。スギの植林の中を進むと滝の下に出る。ツリバナ、ウワミヅザクラ、コゴメウツギ、キハダ、ホツツジ、フサザクラマンネングサ等。これより上はイタヤカエデ、コハクウンボク、キブシ、ミヅナラ、ツノハンバミ、シキミ、ミツバカエデ、サワシバ、ヒイラギ等、落葉樹を主体とした樹林となっている。

太田の池の周囲には湿地があり、アカバナ、ミゾゴケ等がみられる。

池より高原までは約6キロ。はじめは杉の植林の中を進む。（ミゾゴケの大群落がある）やがて用水路に沿う道となる。ママコナ、ヤブレガサ、キオン、ギボウシ、カワミドリ、ミズタマソウ、フサザクラ、ウツギ、ミヅナラ。

⑦砥ノ峯^(4.5キロ)—長瀬^(2.5キロ)—千町峠^(4.5キロ)—栃原高原^(10キロ)

砥ノ峯高原より宍粟郡への道をおり、谷川をさかのぼる。途中湿地がある。ヤマボウシ、イタヤカエデ、ハリギリ、カラスザンショウ、アサガラ、キクバヤマボクチ、ジラキ、ノリウツギ、タニウツギ、オタカラコノ、フサザクラ、イソノキ等、千町峠附近はチンマササにおおわれている。クリの木が多い。峠より栃原谷までは旧道と林道と2本の道がある。ブナ、ホクチアザミ、ツチアケビ。栃原谷には、播州高原登山の基地として栃原高原ロッジが36年より開設され西村公夫氏が経営されている。（収容人員50名、宿泊料 500円）

⑧雪彦山—峯山（15キロ・約6時間～7時間半）

本誌第4巻第1号の雪彦山採集コースの④おくがけコースで尾根に沿って進むと上小田部落、または峯山高原につく。水船官林をのぼりつめた尾根にはブナが残っている。宍粟郡側はスギ、ヒノキの植林となっているが、飾磨郡側は伐採したままとなっている。処々チンマササにおおわれて道はわかりにくくなる。大きな岩の下をとおり、イハヒバが沢山みられる。ブナ、ナンキンナカマド、モミ、ツガ、ミヤマシキミ、パイカツツジ、モミヂガサ、ヒカゲノカヅラ、ケマルバスマイレ、ミヤマクマワラビ、ウリハダカエデ、アカシデ、フタバアオイ。

上小田に山の家「豊楽」が出来、登山者の便宜をはかっている。（電話寺前5451 宿泊料600円）

交通機関

上小田行・播但線寺前駅前より神姫バス、

10.8キロ・約30分・50円

寺前発	6.04	上小田発	7.10
	7.24		8.20
	12.55		13.20
	16.05		16.50
	18.20		18.50

・駅前よりタクシーもある。

川上行・播但線長谷駅前より町営バス

7.5キロ・約30分・50円

長谷発

平日	6.30	休日	6.30
	15.20 (土曜日は13.00発)		17.20
	17.20		

バスは川上につくと折返し長谷行となる。

(いずれも電話長谷22番)

地図

地理調査所発行 5万分の1「山崎」

栃原高原ロッジ 〃 播州高原登山図

文献

大河町役場：小田原谷調査記録 34年11月

〃：砥ノ峯高原調査記録 35年7月

西村 公夫：峯山ハイキングコース

雑誌「登山」34年9月号

〃：段カ峯と峯山高原

〃「山と高原」36年1月号

〃：花のコースを訪ねて

〃「〃」36年6月号

朋文堂：マウンテンガイドブックシリーズ44

中国の山と谷

(p.174

鱗帯を

ol. &c

あまり

のカラ

られる

且つ鮮

る。た

いはな

マカラ

られ身

エシ

県丁

り、お

ながら

9月に

メフ

inusa

193

♀が語

なかん

氏の種

る)種

雄君種

が明種

標本種

現在中谷が所有している。